

教職員の勤務実態等に関するアンケート結果について

本市では、「学校改革！教職員の時間創造プログラム」をもとに、学校現場と連携しながら取組を進めており、教職員の各業務の従事時間や負担感等を把握し、プログラムにおける取組の成果を検証するため、年に1回「教職員の勤務実態アンケート」を実施している。また令和4年度からは、事務職員、養護教諭・養護助教諭、栄養教諭・学校栄養職員については、アンケート項目の改訂を行った上で、別途実施している。

アンケートの結果については以下のとおりである。

i 実施概要

1 目的

市立小学校・中学校教職員の、各業務の従事時間や負担感等を把握し、「学校改革！教職員の時間創造プログラム」における取組の成果を検証するため

2 実施時期

① 常勤の教職員（事務職員、養護教諭・養護助教諭、栄養教諭・学校栄養職員、学校主事、給食技師を除く）

令和6年（2024年）1月17日（水）から1月31日（水）

② 事務職員、養護教諭・養護助教諭、栄養教諭・学校栄養職員

令和6年（2024年）2月8日（木）から2月23日（木）

3 調査対象及び回答数

（1）勤務実態に関するアンケート（内容①）

【対象校】 ① 抽出の小中学校 67 校（小 46 校、中 21 校）

② 全小中学校

【回答数】

	対象者数(人)	有効回答数	割合(%)
事務職員	161	94	58.4%
養護(助)教諭	152	65	42.8%
栄養教諭・学校栄養職員	70	42	60.0%
上記外全職種	1,869	1,323	70.8%
総計	2,252	1,524	67.7%

※ 平成29年度調査開始時の取扱に準じ、在校による業務に、平日1日平均16時間を超えて従事したと回答した者は無効としている。

（2）意識調査に関するアンケート（内容②）

【対象校】 全学校及び幼稚園 146 校(園)

【回答数】

	対象者数(人)	回答数	割合(%)
事務職員	165	113	68.5%
養護(助)教諭	159	89	56.0%
栄養教諭・学校栄養職員	71	45	63.4%
上記外全職種	3,816	3,029	79.4%
総計	4,211	3,276	77.8%

4 主なアンケート内容

(1) 勤務実態に関するアンケート（内容①）

各業務に従事している時間及び負担感

（授業、授業準備、部活動、給食費関係、学校徴収金関係、保護者対応 等）

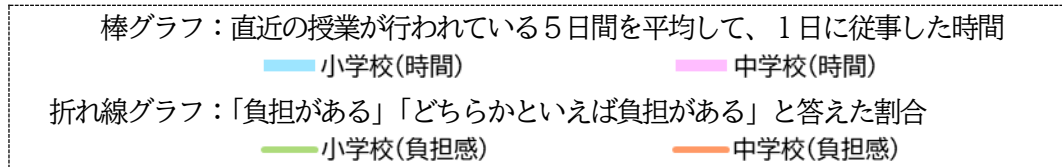
(2) 意識調査に関するアンケート（内容②）

働き方改革、休暇取得のしやすさ等の意識に関することや、働き方改革のために個人で取り組んでいることなど

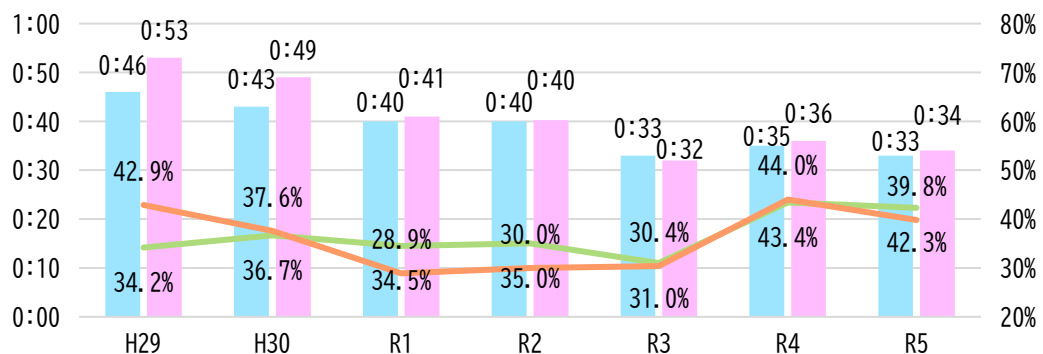
ii 令和5年度アンケート結果

1 勤務実態に関するアンケート結果（従事時間及び負担感）

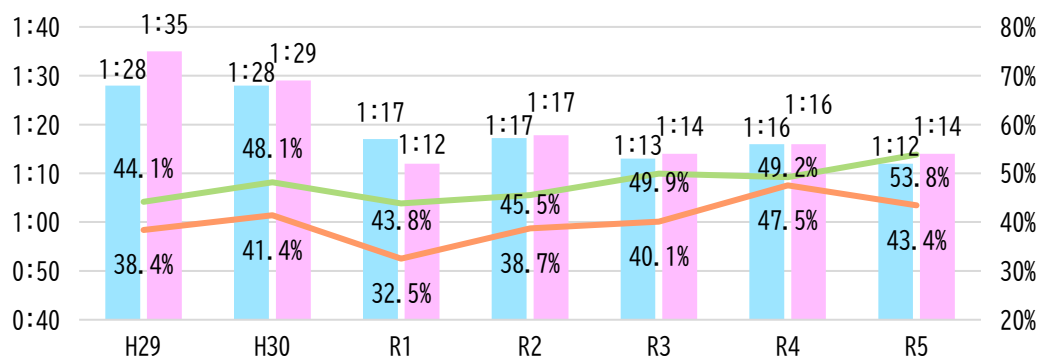
(1) 主幹教諭・教諭・講師（平成29年度からの推移）



①朝の業務



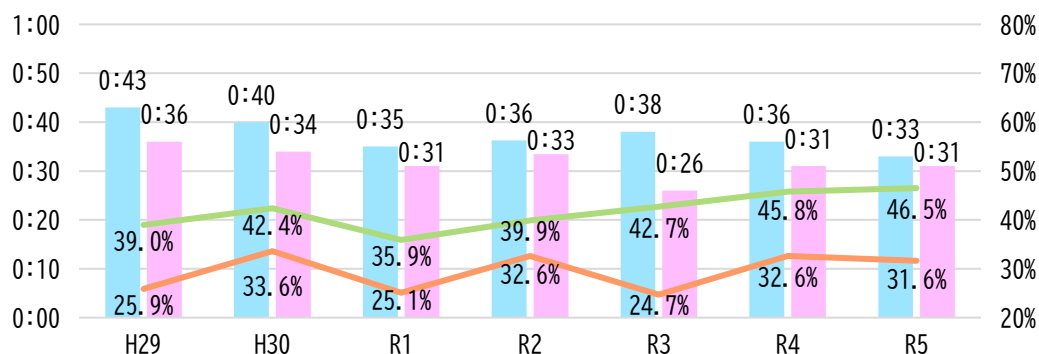
②授業の準備



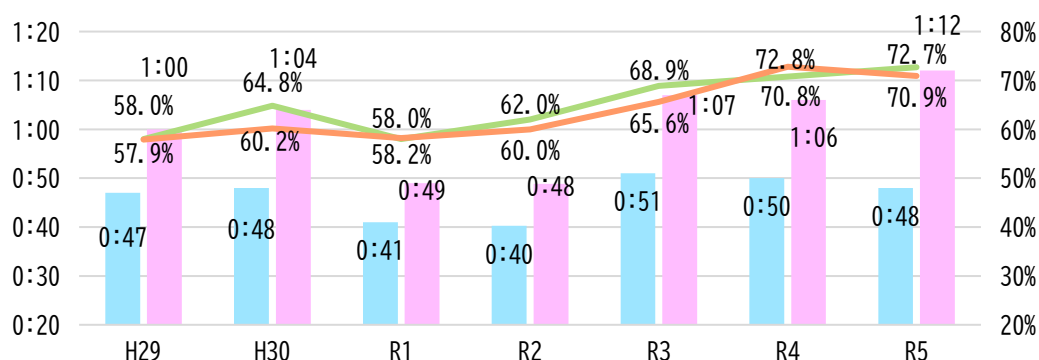
「②授業の準備」については、平成29年度と比較すると従事時間は減少しているが、負担感は増加の傾向にある。これは、ICTの活用により準備時間は短縮されてきたが、経験が浅く授業の準備そのものに不慣れな教諭等が増加したことにより負担感が増加したのではないかと考えられる。

— 小学校(時間) — 中学校(時間) — 小学校(負担感) — 中学校(負担感)

③学習指導

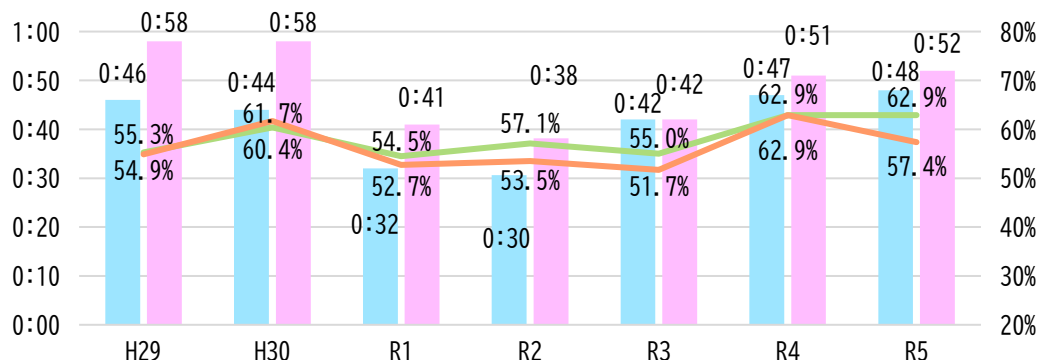


④成績処理



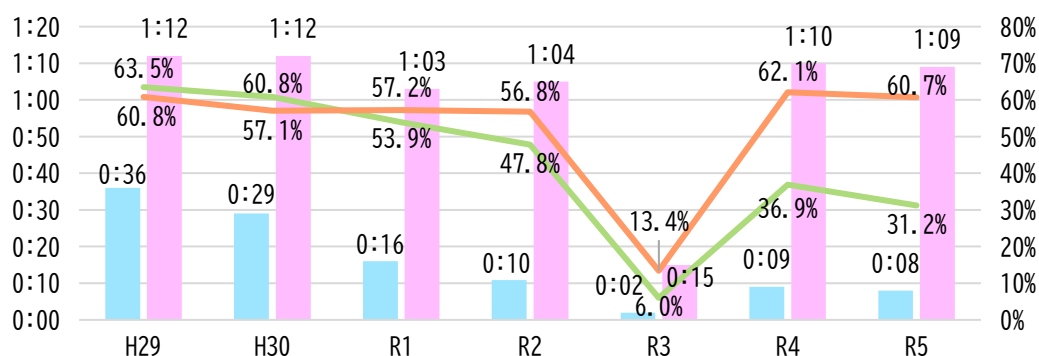
「④成績処理」の従事時間及び負担感は、平成29年度と比較すると共に増加している。これは、ICTの活用をはじめとした学習形態の変容により評価の方法が多様化したことや、「②授業の準備」と同様に、経験が浅く成績処理そのものに不慣れな教諭等が増加したことなどが影響しているものと考えられる。

⑤生徒指導

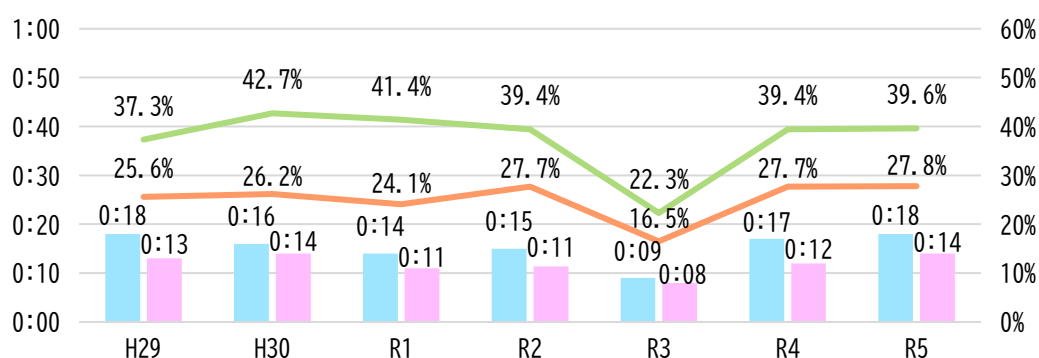


小学校(時間) 中学校(時間) 小学校(負担感) 中学校(負担感)

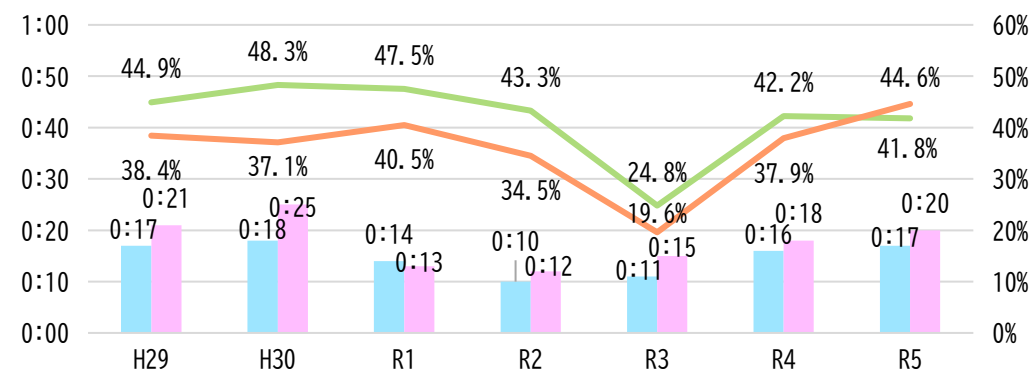
⑥部活動



⑦児童会・生徒会活動



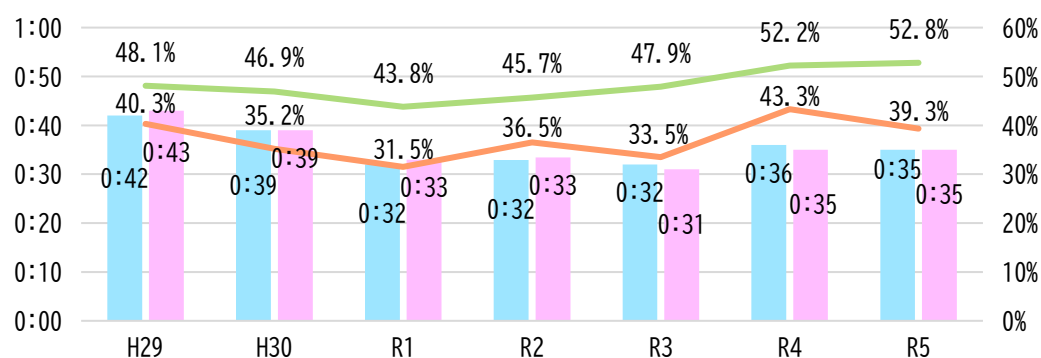
⑧学校行事



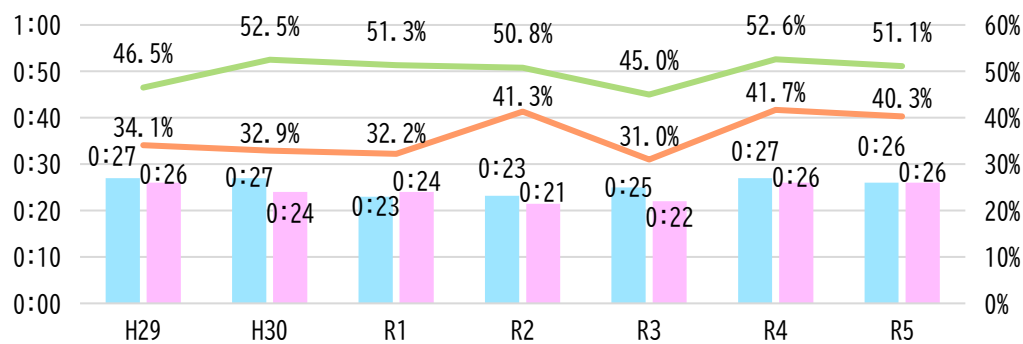
「⑥部活動」「⑧学校行事」の従事時間及び負担感については、令和2年度、3年度と制限・休止されていた活動が、令和4年度からは再開されてきたことにより、コロナ禍前の業況にもどってきた結果だと考えられる。

小学校(時間) 中学校(時間) 小学校(負担感) 中学校(負担感)

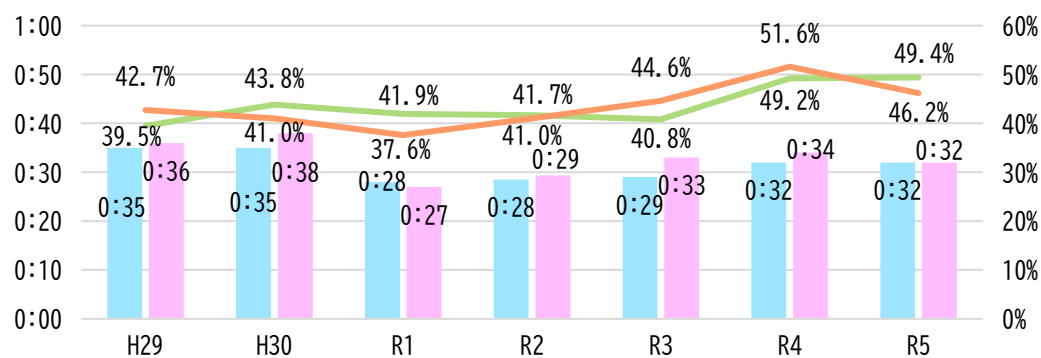
⑨学年・学級経営



⑩学校経営

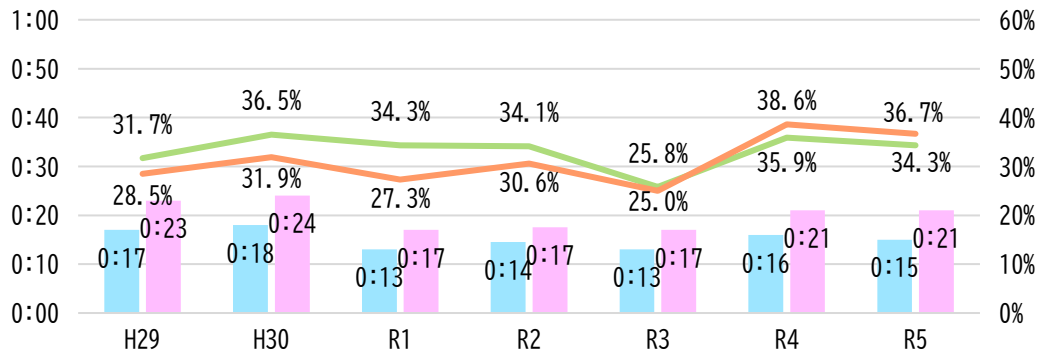


⑪職員会議・学年会等の会議

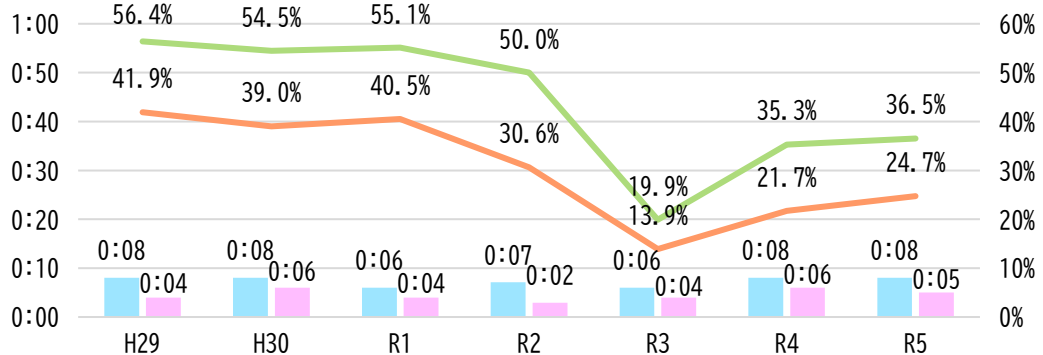


小学校(時間) 中学校(時間) 小学校(負担感) 中学校(負担感)

⑫個別の打ち合わせ

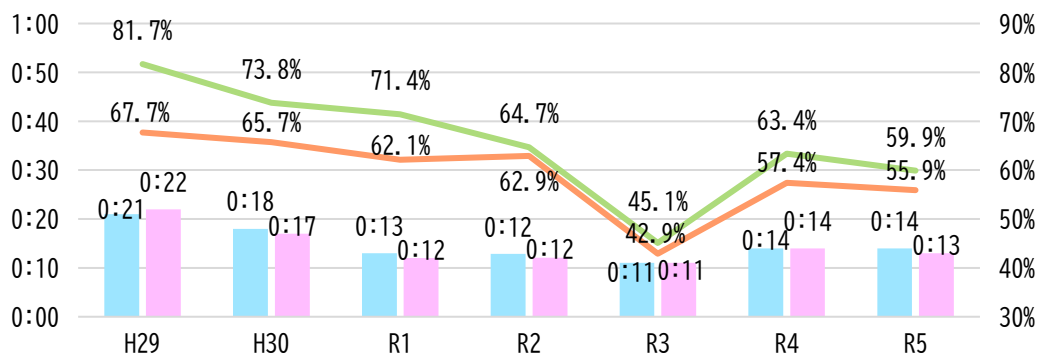


⑬給食費・学校徴収金関連業務

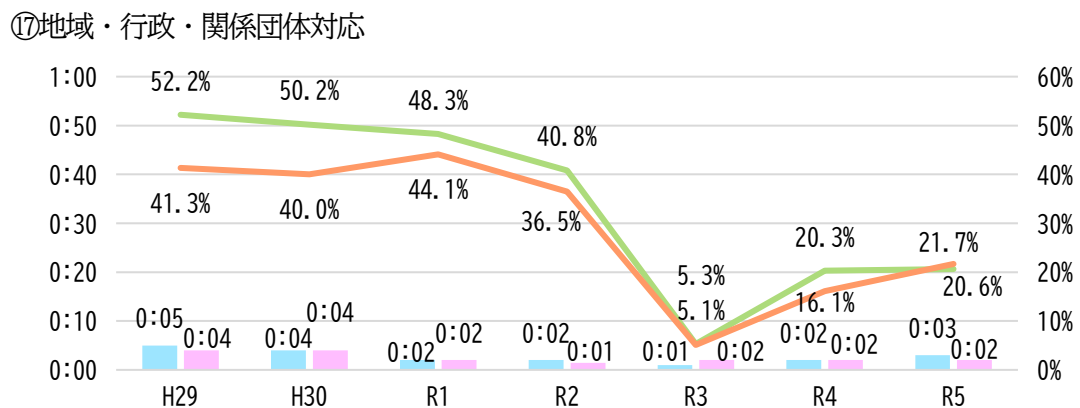
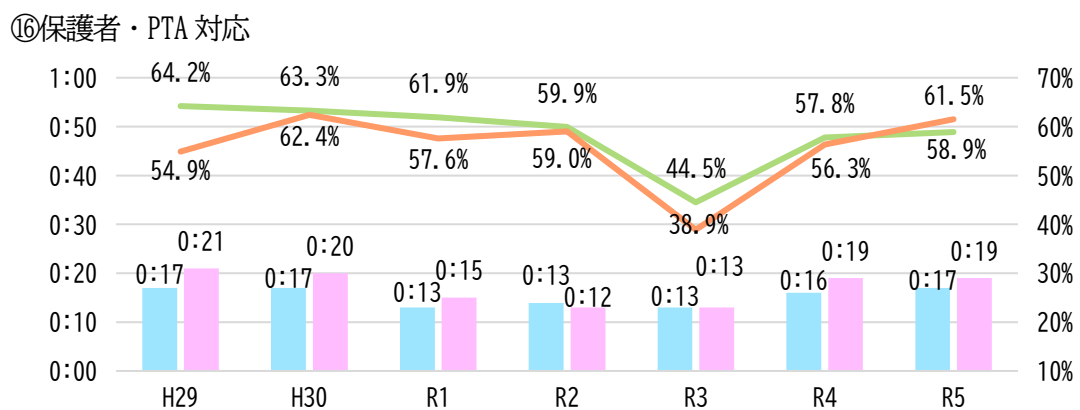
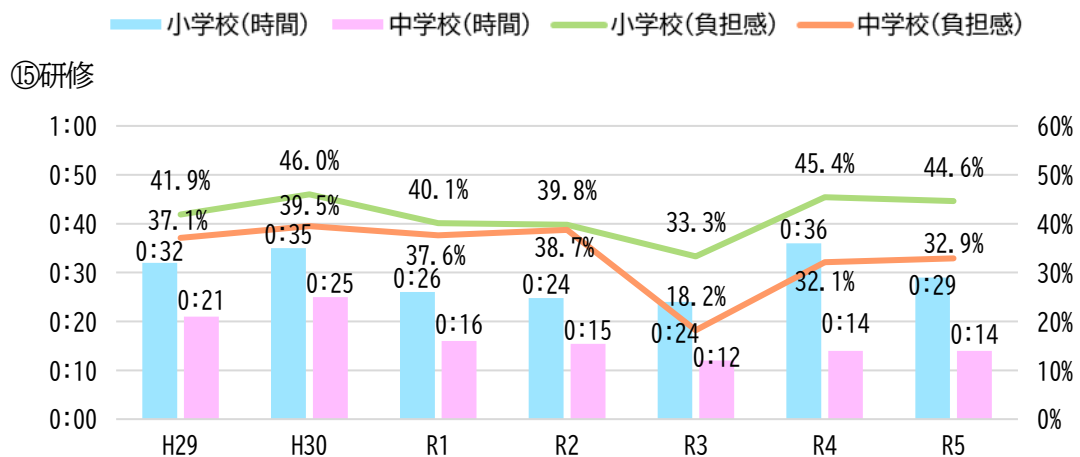


「⑬給食費・学校徴収金関連業務」の負担感が、平成29年度と比較すると減少している。これは、給食費の公会計化や学校徴収金のシステム管理の導入の効果が一定程度表れたが、未納者への対応等に負担を感じている教諭等が増えているものと考えられる。

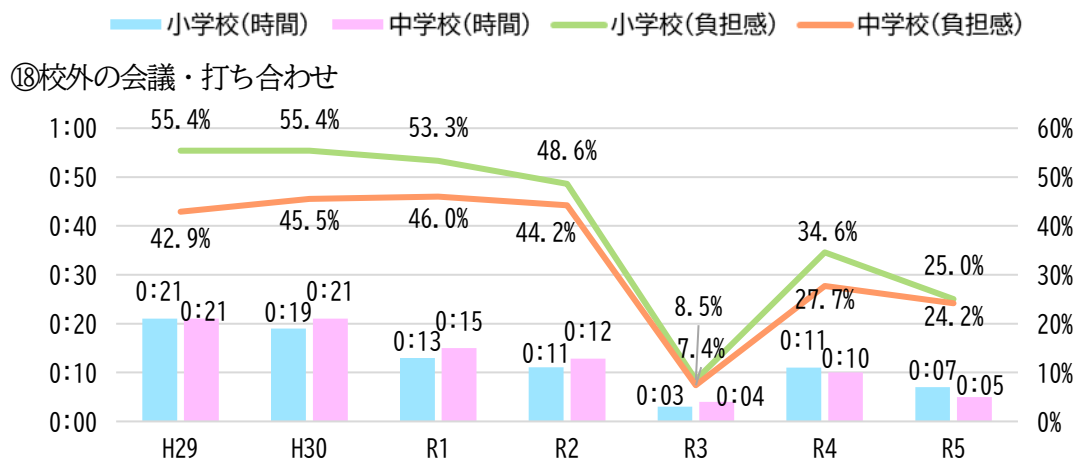
⑭調査回答その他の事務



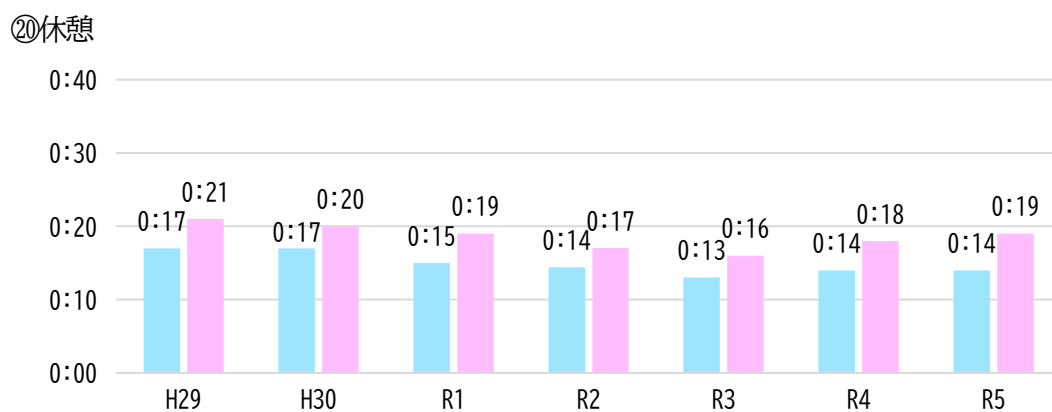
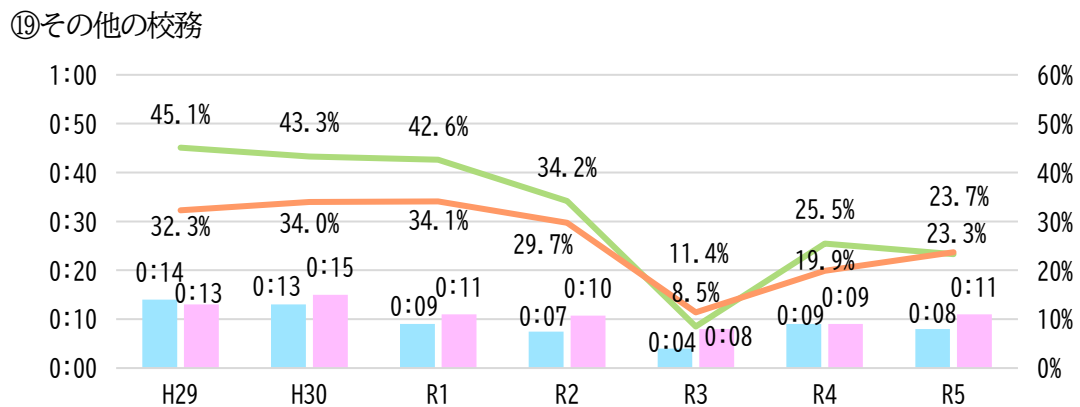
「⑭調査回答その他の事務」の負担感が、平成29年度と比較すると減少している。これは、諸調査の精査及び削減による取組の効果が表れているものと考えられる。しかしながら、調査そのものへの負担感は依然として高い。



「⑰地域・行政・関係団体対応」の負担感については、令和3年度と比較すると増加しているが、平成29年度と比較すると大きく減少している。これは、コロナ禍により制限・休止されていた活動が、精選されるとともに回数や方法の見直しを行ったうえで再開されてきた結果が表れているものと考えられる。

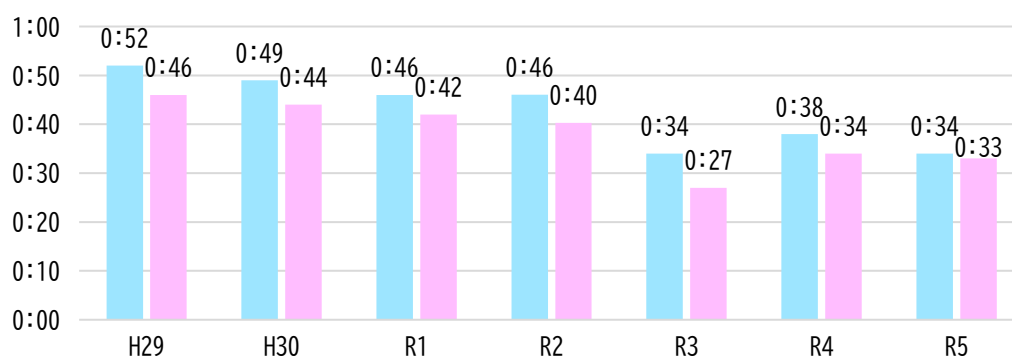


「⑱校外の会議・打ち合わせ」の従事時間及び負担感については、コロナ禍を経て研修のあり方等が見直されてきた結果ではないかと考えられる。



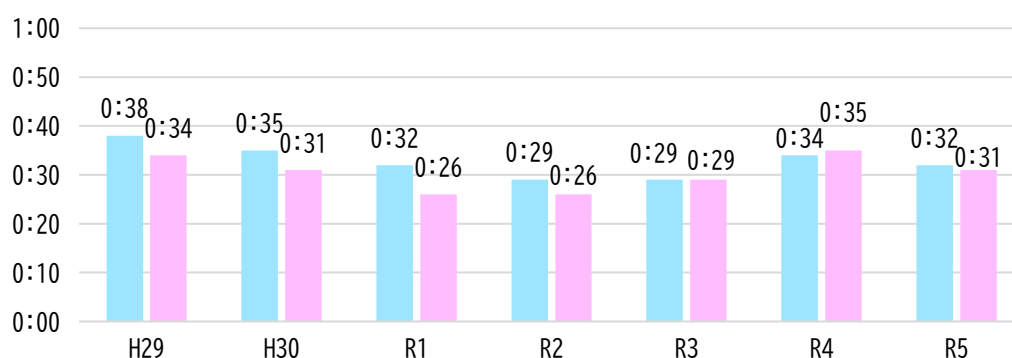
小学校(時間) 中学校(時間) 小学校(負担感) 中学校(負担感)

②子どもと直接向き合った時間

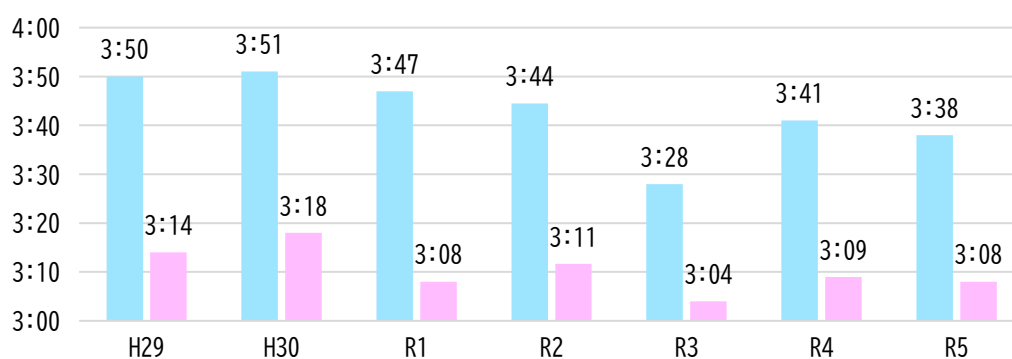


「②子どもと直接向き合った時間」については、減少傾向にある。これは日課の工夫等で、児童生徒の下校時刻が早くなったことで、放課後の触れ合いの時間が減少したものと考えられる。

②家庭への持ち帰り仕事を行った時間

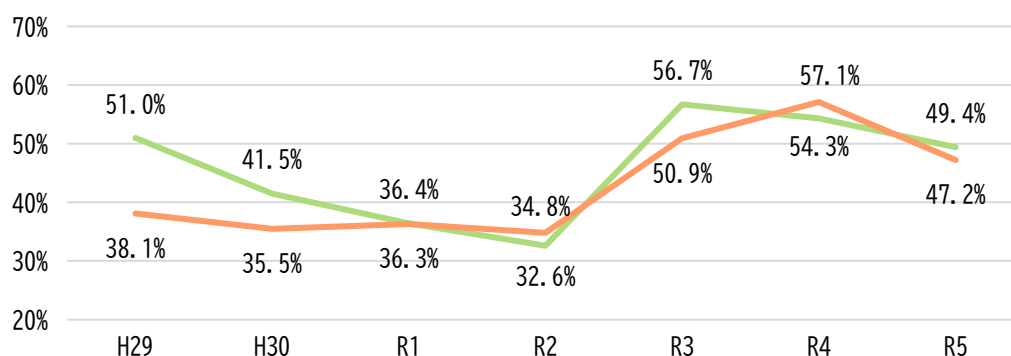


③授業時間

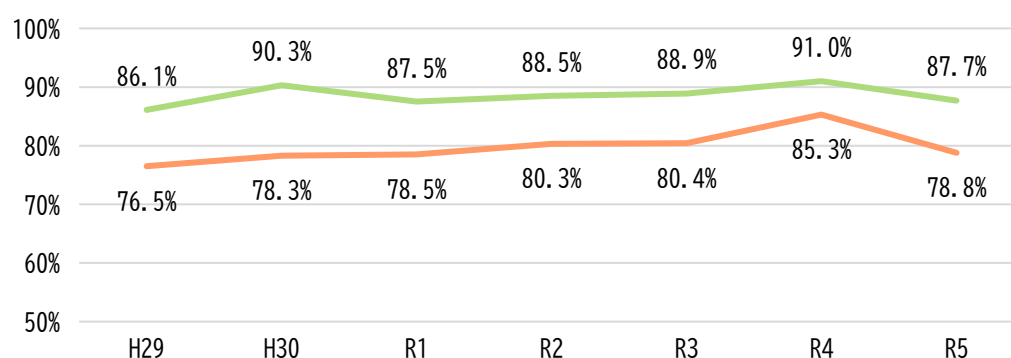


小学校(時間) 中学校(時間) 小学校(負担感) 中学校(負担感)

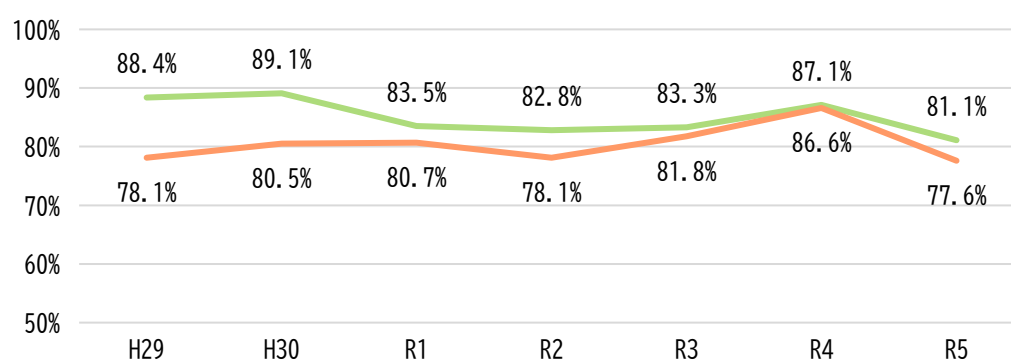
②④出席簿関連業務



②⑤通知表関連業務

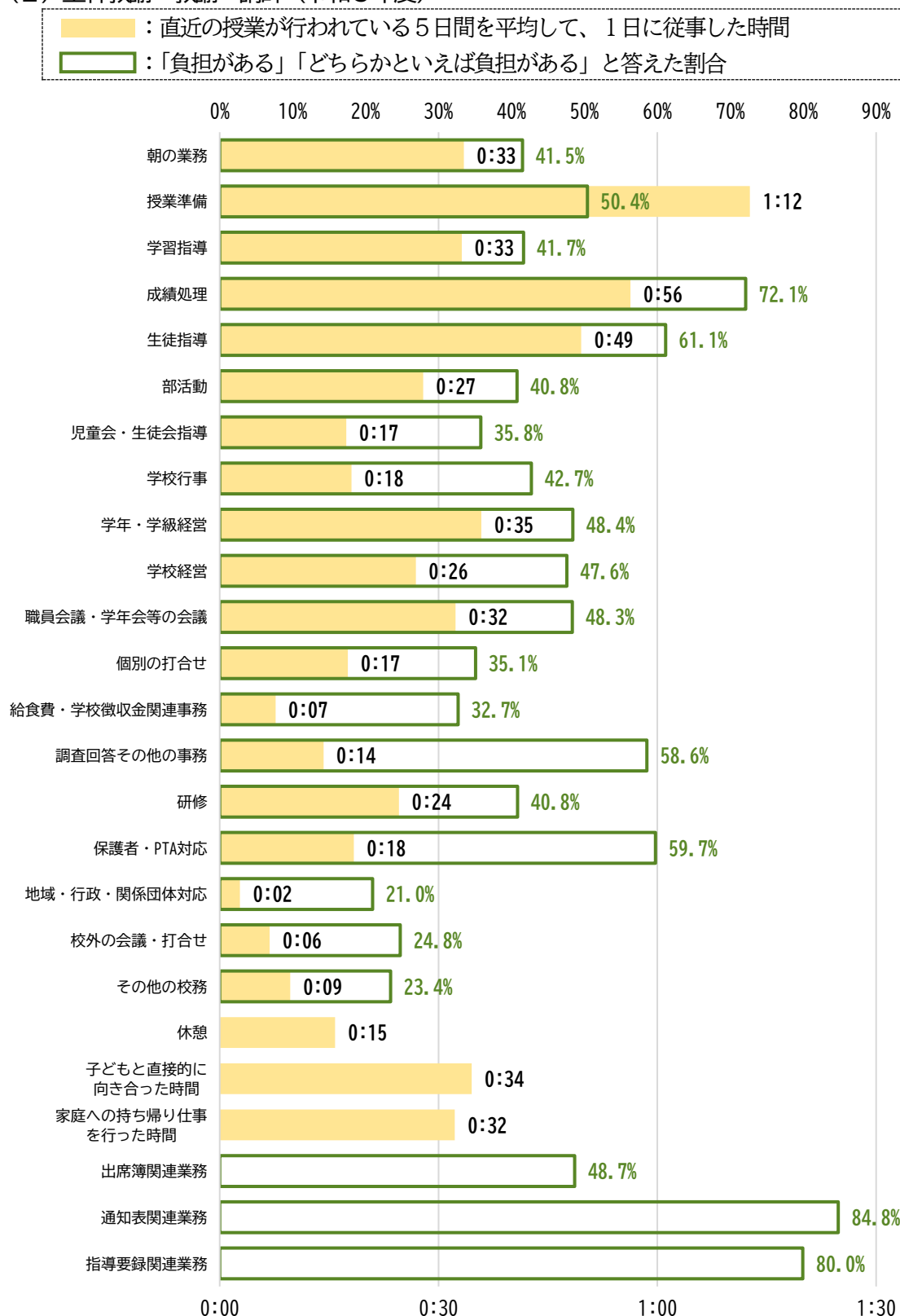


②⑥指導要録関連業務



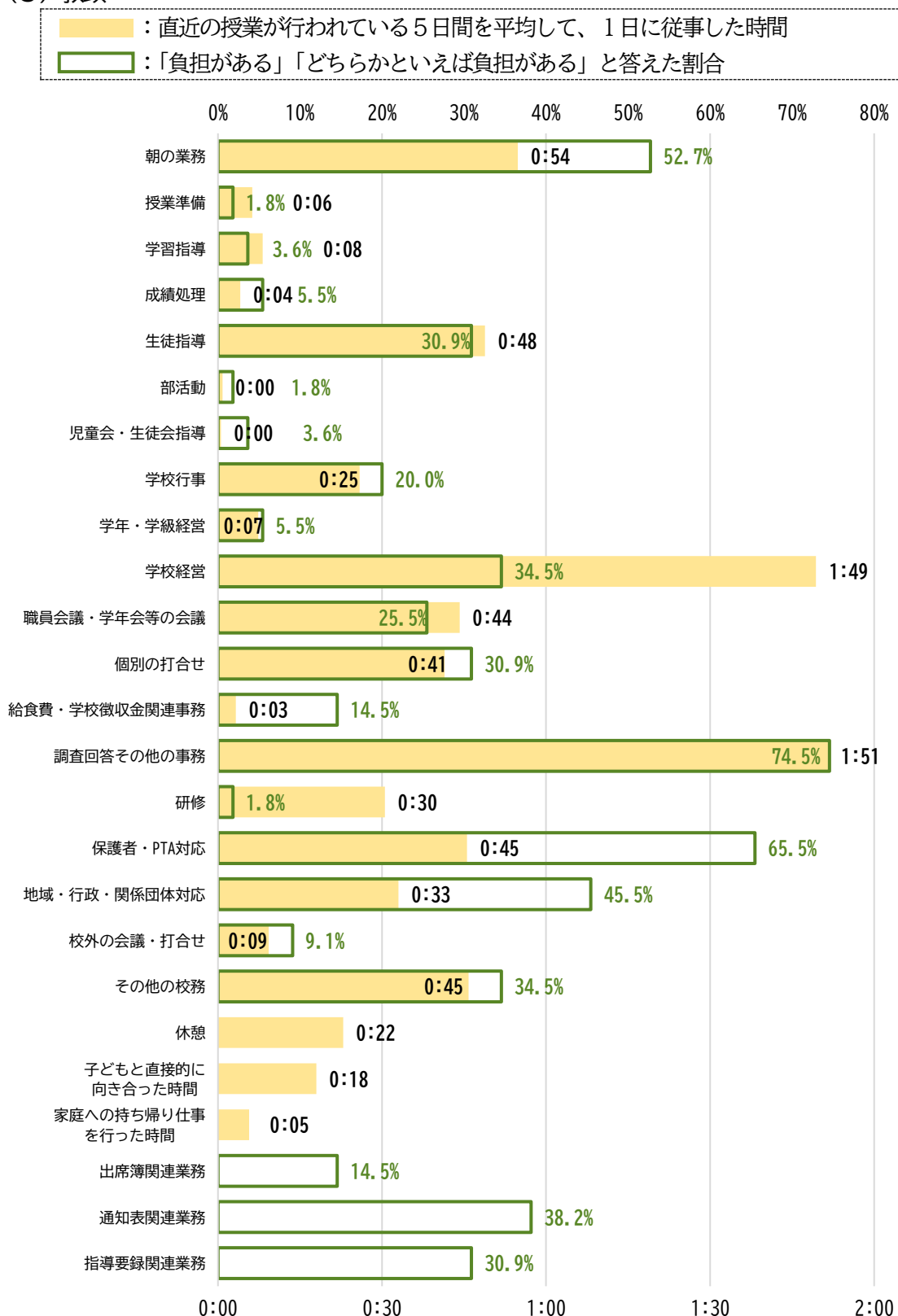
「②⑤通知表関連業務」「②⑥指導要録関連業務」の負担感は未だ高く、中学校では8割弱、小学校では8割を超えている。通知表の作成回数の削減や指導要録等の作成方法については工夫がなされているが、結果としては負担感は大きいものとなっている。

(2) 主幹教諭・教諭・講師（令和5年度）



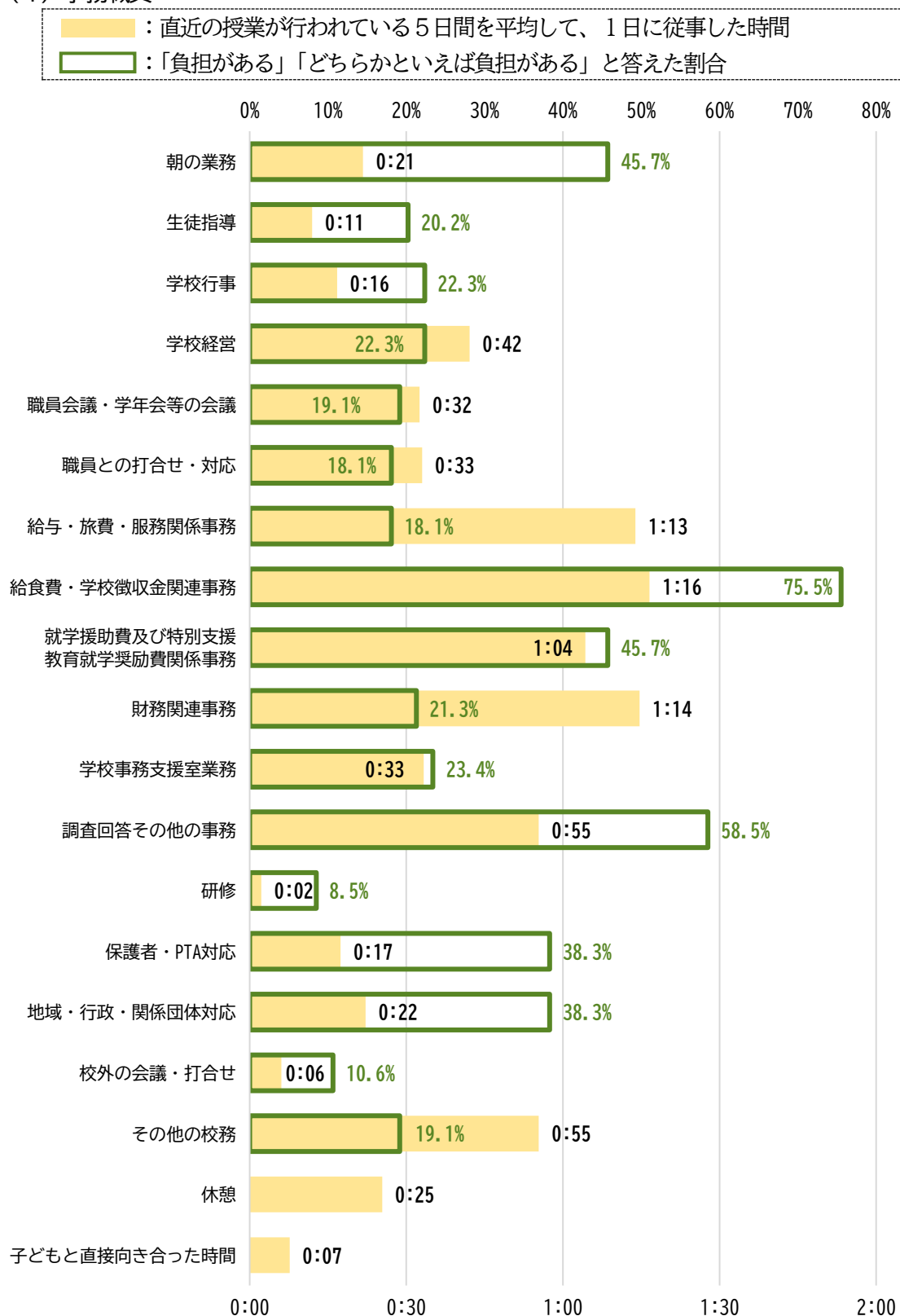
通常業務においては「成績処理」「生徒指導」についてが、従事時間・負担感ともに高かった。また、「調査回答その他の事務」「保護者・PTA 対応」については、従事時間はあまり長くないが負担に感じている教諭等の割合が高いという結果が出た。

(3) 教頭



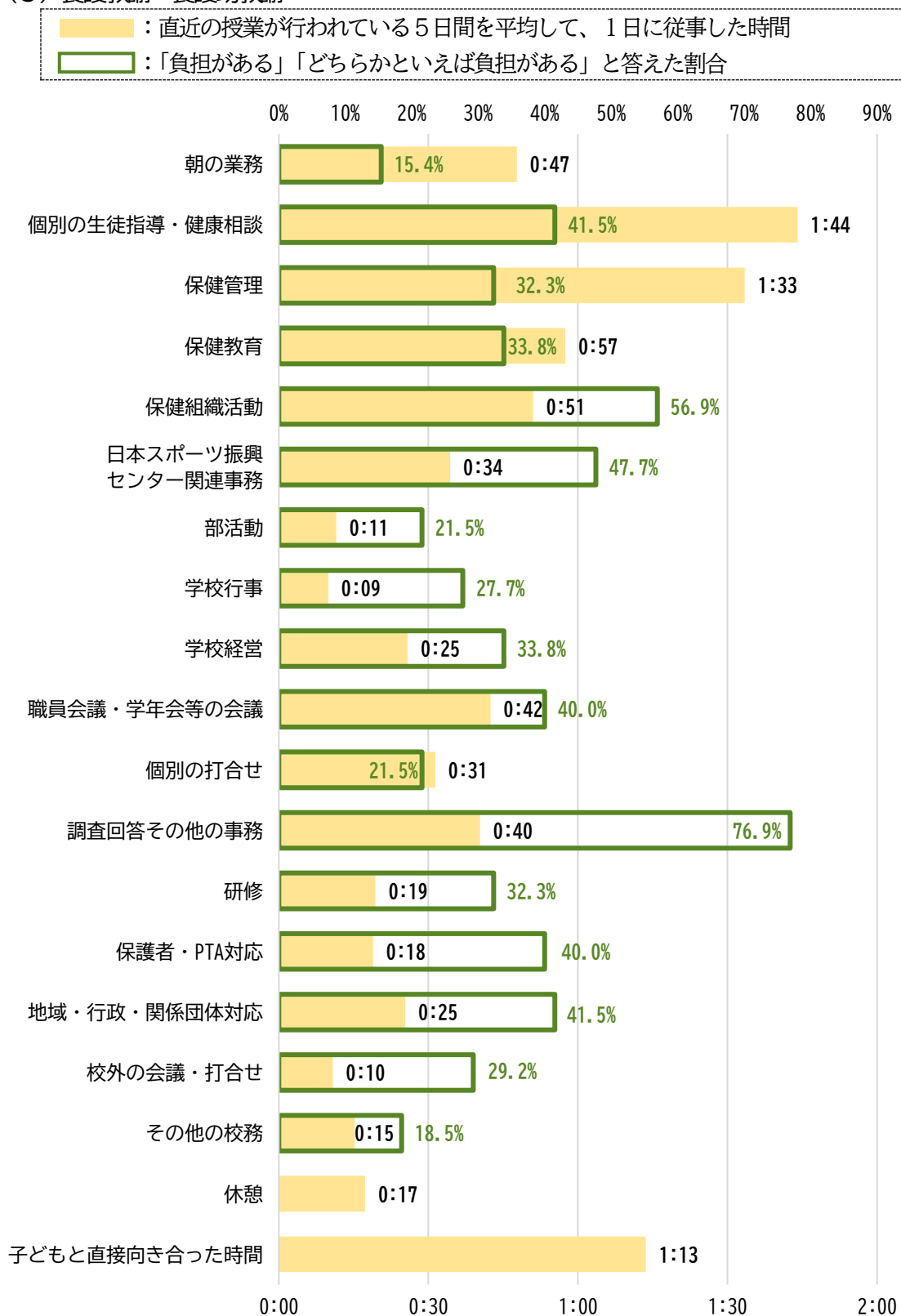
従事時間・負担感ともに「調査回答その他の事務」についてが最も高かった。また、「学校経営」については、従事時間が長い割には負担に感じている教頭は少ない。一方で「保護者・PTA 対応」「地域・行政・関係団体対応」については、従事時間の割には負担に感じている教頭が多いという結果が出た。

(4) 事務職員



従事時間・負担感ともに「給食費・学校徴収金関係」の業務が突出しており、次に「調査回答その他の事務」に対する負担感が大きい状況である。また、「給与・旅費・服務関係事務」「財務関連事務」などの業務については、従事時間は長い負担感は少ない傾向にある。

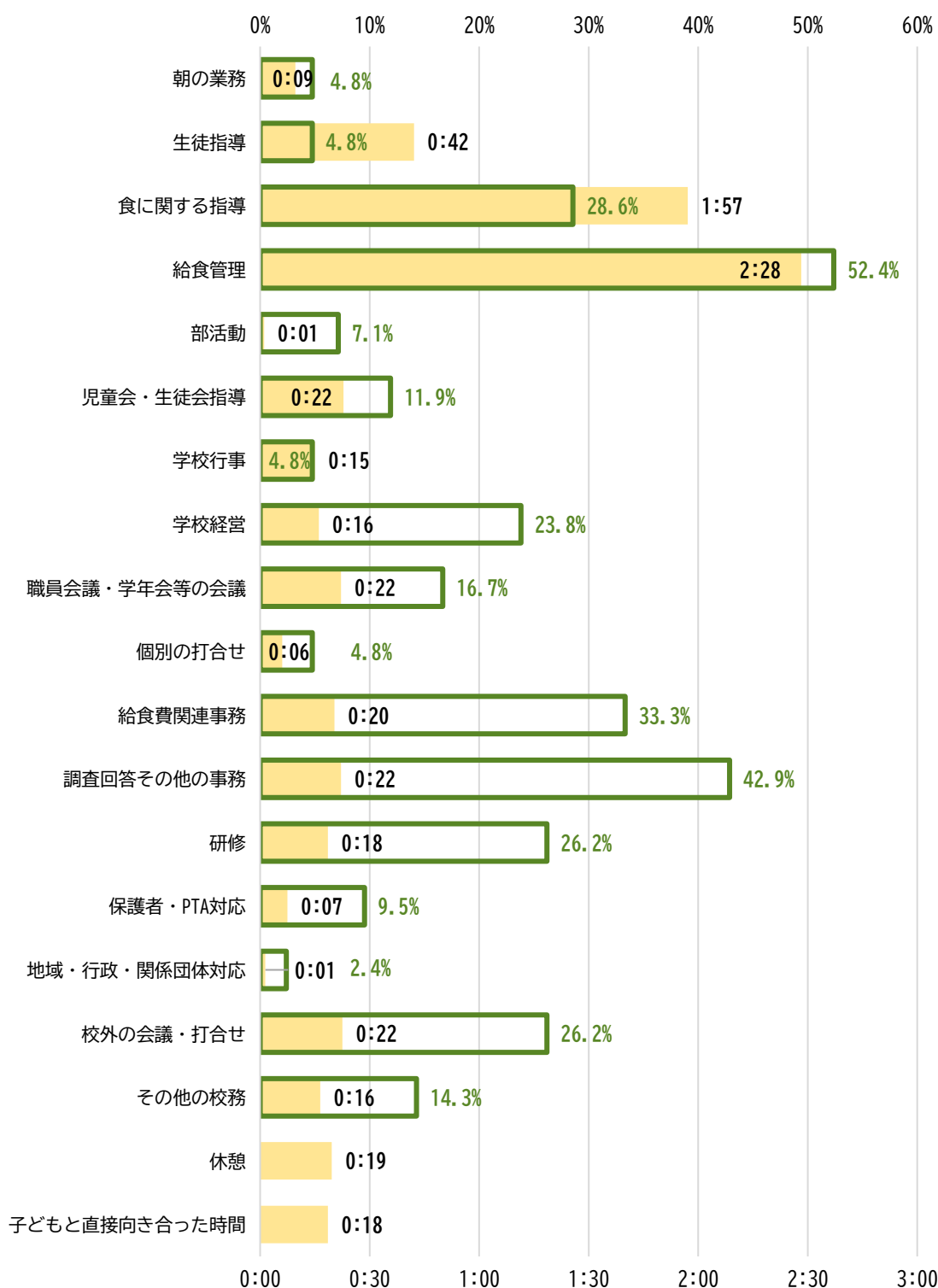
(5) 養護教諭・養護助教諭



従事時間としては、「個別の生徒指導・健康相談」「保健管理」の業務が長かった。また、「子どもと直接向き合った時間」も長くなっている。「調査回答その他の事務」については、従事時間としては長くないが負担感は大いという結果が出ている。「保健組織活動」についても負担感は大い傾向にある。

(6) 栄養教諭・学校栄養職員

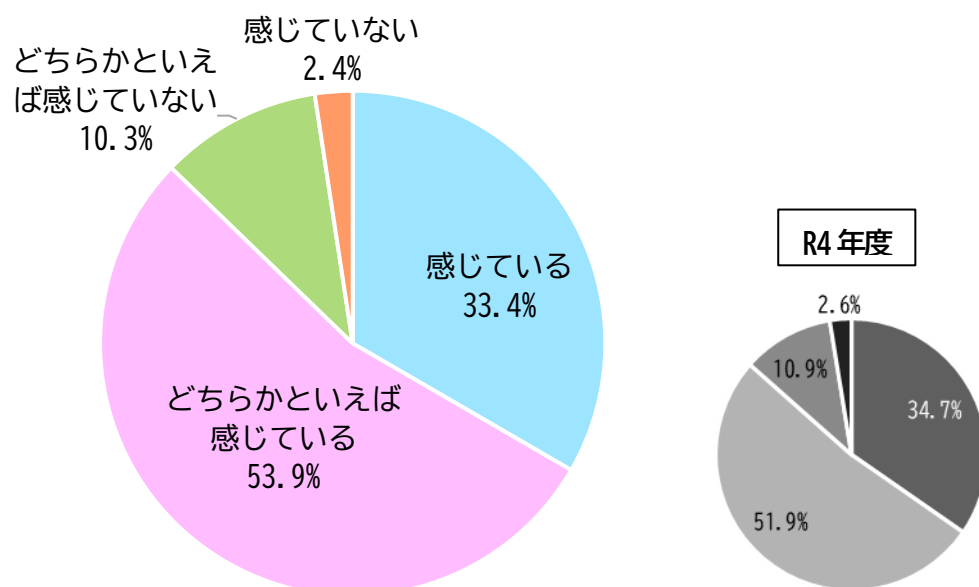
0:09 4.8% : 直近の授業が行われている5日間を平均して、1日に従事した時間
0:01 2.4% : 「負担がある」「どちらかといえば負担がある」と答えた割合



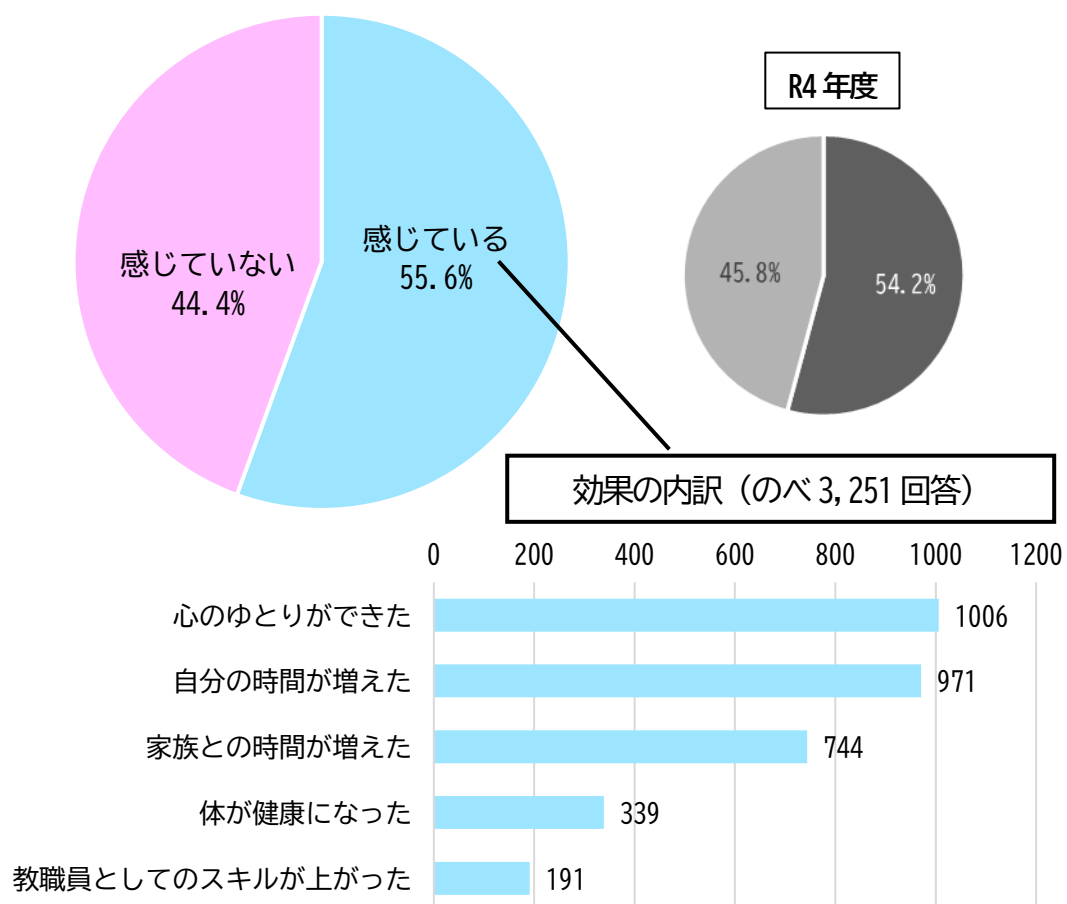
従事時間・負担感ともに「給食管理」の業務が突出しており、次に「調査回答その他の事務」に対する負担感が大きい状況である。「調査回答その他の事務」については、従事時間としては長くないが負担感は大いという結果が出ている。

2 意識調査に関するアンケート結果

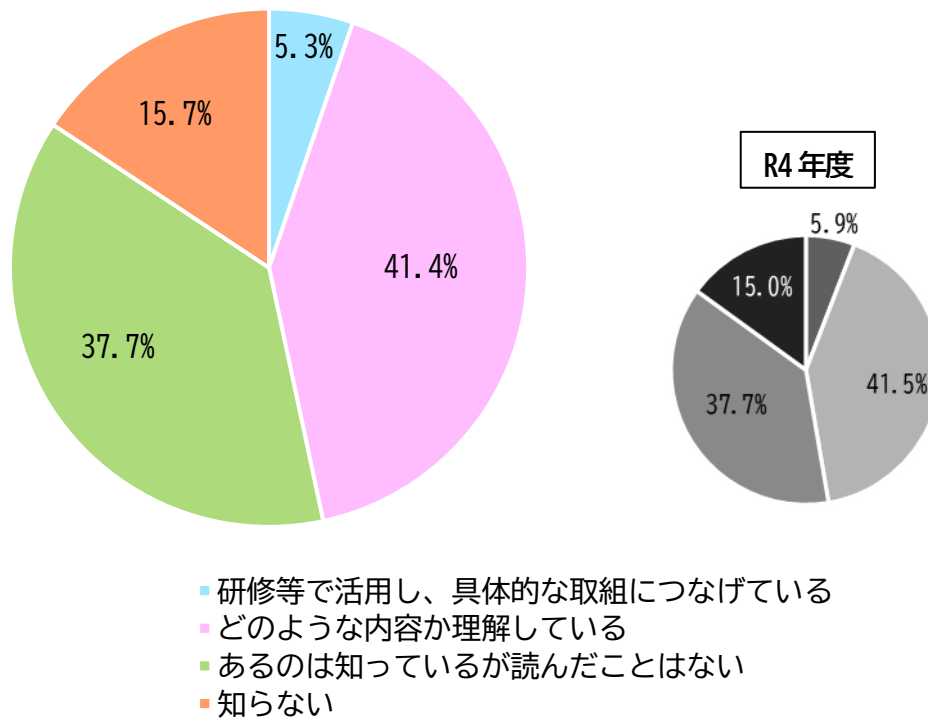
(1) 現在の仕事にやりがいを感じていますか。



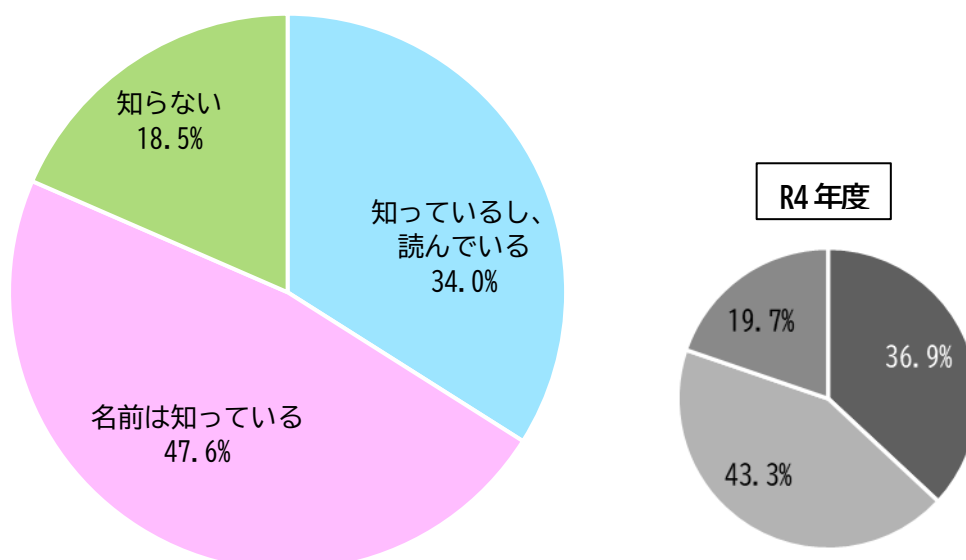
(2) どのようなことで働き方改革の効果を感じていますか。(複数回答可)



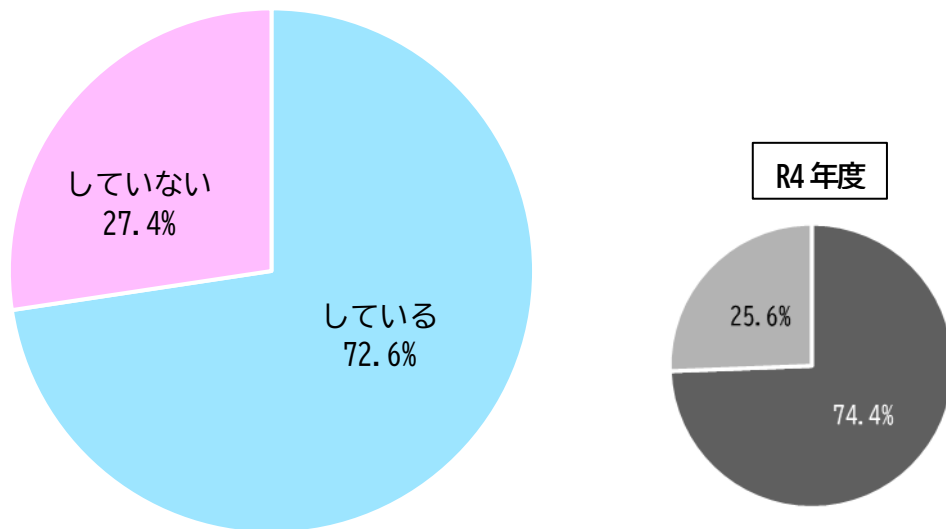
(3) 学校改革！教職員の時間創造プログラムについてどのくらい知っていますか。



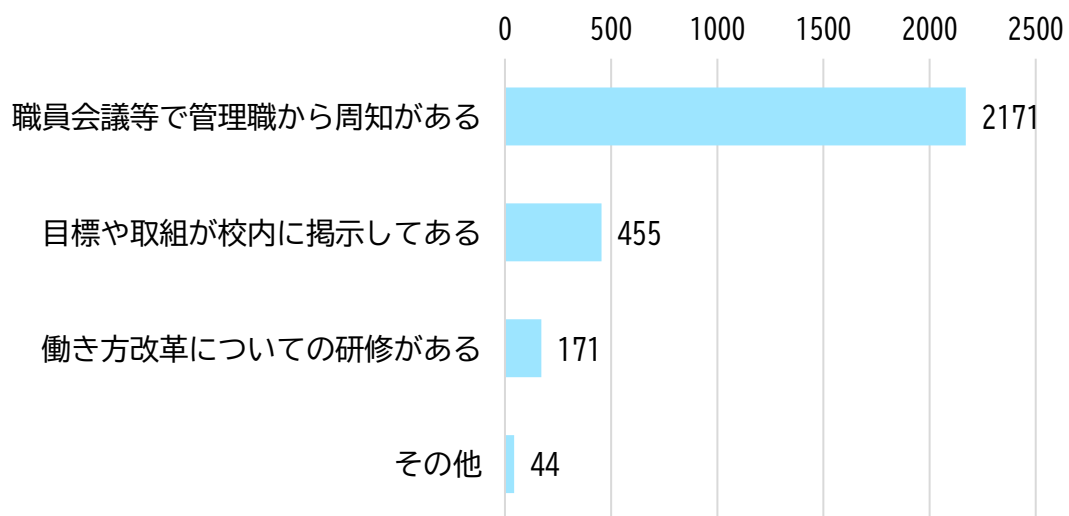
(4) ニュースレターについて知っていますか。



(5) あなたの学校では、働き方改革の目的や目標について職員全体で共有していますか。



(6) どのような共有の仕方をしていますか。(複数回答可)



【その他の意見】

- ・1ヶ月の時間外勤務時間の周知がある。
- ・管理職からの声かけ
- ・業績評価の項目にある
- ・定時退勤日の徹底
- ・働き方改革について、声を上げる人がいる
- ・働き方改革につながるアイデアを全職員で出し合うなどして共有している。
- ・毎月、出勤簿の確認の際に啓発文を発出している
- ・面談で管理職から周知があった

等

(7) 働き方改革として個人で取り組んでみて、効果があった取組があれば教えてください。

(740人が回答)

タイムマネジメント

- ①何時までに終わらせると、目標を決めて取り組むことにより効率的に仕事を行うことができた。
- ②朝の出勤時間を30分遅くする(早すぎる出勤を避ける)。
- ③夕方遅くまで残らず、朝早く出勤して仕事する。
- ④一年間の仕事の見通しを持ち、早め早めに着手する。(教材研究は長期休みに行う)
- ⑤to do リストを作り、仕事に優先順位をつけ、効率的に業務をこなす。
- ⑥在校時間の把握
- ⑦退勤が18:30を過ぎたときは、何をしていた時間がなかったのかを記録すること。

組織的改革(業務の分担・体制づくり・職場環境の改善等)

- ⑧学年会で、仕事のリストアップをし、主任だけに任せず、学年全員で仕事を分担していたことが定時退勤や仕事の軽減につながった。また、様々な仕事を任せてもらい、失敗したこともあったが、良い経験、学びとなった。
- ⑨早く帰る日を決める。周りの人と一緒に声をかけあうなど帰りやすい雰囲気を作る。
- ⑩職員同士をつなぐために、『壺川カフェ』というものを企画・運営した。先輩教師のノウハウや失敗談を若手が聞いたり、質問したりしながら、日頃の悩みを解決したり、趣味の話をして、楽しんだりする。人間関係ができると、他の場面でも会話が増え、負担は減らずとも負担感が減るのだと感じている。
- ⑪休暇取得時にフォローしあえる職場の人間関係づくり
- ⑫保護者対応は、関係職員に遠慮なく相談して、一人で抱え込まない。
- ⑬勤務時間の繰り上げ・繰り下げの積極的活用
- ⑭高学年の担任をしているが、教科担任制は効果があった。空き時間の活用と教材研究の時間短縮ができた。また、児童理解(学年間)も深めることができた。
- ⑮教頭が行っていた退勤時の施錠を学年当番制にすると、全職員が退勤時間を意識することにつながり、在校時間が平均で10時間ほど減った。
- ⑯日課を見直して、火・木の放課後は集中して仕事に取り組めるようにしたことで、勤務時間外に残る職員が大幅に減った。時間外の勤務で80時間を超える職員が0になった。

ICTの活用

- ⑰Teams を校内職員の連絡手段として常用することで、落ち着いた時間に連絡したり提案文書を送信予約したりできるようになった。
- ⑱今まで先生方への連絡は基本口頭で行っていたが、現在は、基本 teams で送り、必要があれば、口頭で補足するように変えたところ、連絡忘れも減り、記録として見返すこともできるため、効果があった。

リフレッシュ・趣味

- ⑲退勤後の夕方の時間を趣味の時間にあててストレス解消ができています。
- ⑳自己研鑽をすることで、働きがいも高まり、仕事の効率も上がる。
- ㉑早寝早起き朝ごはん、こどもだけでなく自分も規則正しい生活をし、日中無駄なく業務をこなせる体づくりをし、頭もすっきりさせる。

具体的業務の工夫

- ㉒学級通信を減らす
- ㉓通知表が2回になったこと
- ㉔試験の採点に、AI 採点システム(デジらく採点2)を導入した。

(8) 働き方改革についてのご意見をお聞かせください。(1, 225人が回答)

管理職のマネジメント力強化、学校間格差

- ①管理職によって年休取得や定時退勤のしやすさが大きくかわってくると思う。
- ②各学校に委ねられている裁量が多く、学校長によって働き方改革が進んでいる学校とそうでない学校との差が大きいと思う。市が中心となって進めてほしい。

教職員の意識改革

- ③一人一人の意識改革が最重要だと思います。結局、共通の目標や具体的取組を示されても、それを個人がどう受け取るかも違いますし、効率的に仕事を進めていこうとする意識については個人差が大きいと思います。せっかく組織が働き方改革を進めていこうとがんばっていても、その温度差が埋められていないように感じます。

家庭や地域への発信（周知）

- ④教職員の働き方改革の内容を世間の皆様にお知らせする必要があると思う。皆様にご理解いただかないと（保護者も含め）難しい面があるように思う。また、スクールロイヤーの手厚い配置をしていただきたい。

業務の見直し、平準化

- ⑤全体的には、残業時間の平均時間が減っているなどしているが、一部の人間に仕事が高極端に偏っているように感じる。働き方改革という言葉のもと、仕事を断る人が増え、仕事を断らない（断れない）人に仕事が集中しているのではないかと思います。

学校（教職員）が担う業務の整理

- ⑥文科省から明確に学校の仕事ではない範囲を示してほしい。地域との結びつきが強ければ学校からは言いにくいことが多い。

体制整備

- ⑦こどもたちが学校にいる時間に休憩時間が設定されていると、休憩を取るのとは不可能ですので、休憩時間は放課後の時間に全ての学校が合わせて設定してほしいです。
- ⑧繰り上げ・繰り下げ勤務について知らされていない(管理職が勧めない?)学校があるため、もっと告知と実施を推進してほしい。
- ⑨授業時数を減らし児童の下校時刻を早めるか、専科を増やして空き時間を作るかしなないと難しいと思います。(教員の週当たりの授業時間の上限を決める。)
- ⑩8時20分勤務開始なのに、少なくとも勤務開始10分前には教室にいないかならないのは疑問です。また、勤務開始時刻よりも1時間も早く学校を開けるので、こどもたちが来ている時間には出勤しなければと思ってしまいます。
- ⑪学級二人担任制(担任・副担)の導入。

人員不足

- ⑫欠員がないように人員配置をしてほしい。
- ⑬不登校傾向の子や教室に入れない生徒の対応してくれる支援の教員の配置。

部活動

- ⑭中学校の部活動の指導は教育的効果があることは十分承知しているが、これからの教員養成、働き方改革の面からは、縮小していくべきだと思う。
- ⑮部活動をしなくてよくなれば働き方改革が進むと思っています。7時頃部活が終わる時点で勤務時間を超えています。したい人、したくない人で選べる環境になればと思いますが、人材確保が難しい現状も理解できます。

児童生徒・保護者対応

- ⑯本来の仕事プラス、多様化している生徒の対応が入ってくるので時間内では仕事ができなきていません。
- ⑰保護者から理不尽な要求、要望があり、その対応にかなりの時間を費やしています。学校外(第三者)の専門的な立場の方がいらっしゃるとありがたいと思います。

- ⑮SNS でのトラブルや怠学での不登校など、責任の所在が保護者にあるのではないかと
思う場合も教師が対応していることが多くある。
- ⑯放課後や休業中に起きた児童のトラブルを、各家庭同士や関連機関に連絡をするので
はなく、学校に相談されることがとても多い。放課後や休業中のトラブルは、各家庭
で解決をとほできないのでしょうか。

徴収金等事務処理

- ⑰学校内でのシステムの変更とかさまざまな変更があるときには、その関係のプロで私
達に教えてくださる方がいらっしゃると思います。
- ⑱学校徴収金を、担任以外で行ってほしい。負担です。
- ⑲就学奨励費の申請を学級担任がすることはかなり負担です。学校によっては事務の先
生がされています。事務の先生にお金関係はお願いしたいです。週の授業時数がいっ
ぱいで、休み時間も給食時間も全く児童から目が離せず、人手が足りないと思う。

通知表

- ⑳通知表が年に2回になったことは、時間的にも気持ち的にもずいぶん楽になりました。
- ㉑通知表を廃止してほしい。授業時数、授業科目を減らしてほしい。

調査回答

- ㉒このアンケートの意義と効果がわからない。どうしてもするのなら4月の多忙期にア
ンケートをしてほしい。
- ㉓この長いアンケート自体が、働き方改革に反していると思います。結果が示されても、
何が変化するのかかわからず、改革を実感できません。
- ㉔このようなアンケートが負担だという声もあるが、この結果は市内の状況を把握し、
今後活かすために必要である。現場の教職員がこの結果をもとに自分の学校ででき
ることを主体的に考え、行動していくことが働き方改革・時間創造の第一歩だと思う。

待遇改善（給与等）

- ㉕勤務時間を削減することも大事だが、現状なかなか減らすことができず、職員によっ
て仕事量にも偏りがあるので、部活動指導や、委員会等から辞令がおりてくる特別な
仕事については、それに対する手当をつけてほしい。賃金が変わらないから余計に不
満が出ている。

心のゆとりややりがい

- ㉖これまでの教育委員会、各学校の努力によって勤務時間の縮減はかなりの成果をあげ
ていると感じている。本校においてもその成果によって、職員の心のゆとりが以前に
比べて出てきていると思う。今後は、職員が仕事へのやりがいをこれまで以上に感じ
られるような取り組みを模索しなければと感じている。
- ㉗時間的な改革効果も大切だが、心の余裕についての成果を一人一人が感じ取れること
が、最も大切と考える。

職種別課題

- ㉘例えば戸締りのように、必ずしも教頭が担わなければならない仕事ではない事を全職
員に周知してほしい。何でもかんでも教頭がするものだと思われる。
- ㉙教員の働き方改革だけを言われ、教員が行っていた仕事が事務職員に横流しになっ
ているだけで、学校全体の働き方改革にはなっていないと思う。
- ㉚教員の負担軽減のため事務職員の負担が増えている。学校徴収金業務がシステムにな
って、本来の業務に支障が出てきている。
- ㉛教諭の働き方改革は進んでいるが、1人職種は進んでいないと感じる。個別の対応が
必要な児童が年々増えており、特に担任との関係が取れていない場合など、そこに養
護教諭が入る形となり、負担が増えている現状がある。